

[IV] 大学における性教育

小学・中学・高校の性教育が重要視されているが大学における性教育の必要性はどのように受け止められているのであろうか。

生物学的に成熟した年代の男女の学ぶ大学において、より身近な問題として受け止めることのできる年代に、正しい性の認識のないまま放置されて良いのであろうか。まして、これから青少年の指導に関係する教職を選ぶ者、医療に従事する者は。

・お茶の水女子大・東京女子大・共立女子大・日本女子大・津田塾・一ツ橋大学・広島大学・岐阜大学教育学部・その他の大学で、最近、男性学・女性学・性と生などをテーマとし集中講義・公開講座が開かれているが、まだまだ、ごく一部に過ぎない。

更に大きな問題は、大学の性教育をHIV感染予防という面からしか考えない当事者のいる可能性のあることである。性教育は性器教育でも、HIV感染予防のためでもなく、性を持った生物としての当然の姿を正しく認識することを教えるのではないだろうか。下半身を切り取った性抜きの人間などありえない。人間と人間の心とからだの問題として捕らえなければ、次の世代にも、自分たちの老後の生き方にも、影響は大きい。

これらを考慮し、全国大学保健管理協会主催の研究集会参加校を目標に調査を開始した。各大学には、事務職である学生課に、保健婦・看護婦が直属する場合や、保健管理センターがあり、専任・兼任の教授・助教授、保健婦・看護婦・カウンセラーを備えるところなどいろいろである。

学生課に所属する保健婦・看護婦の悩みは、思春期問題を抱えての孤軍奮戦、事務部の理解度の不足などである。

一方、保健管理センター所長である専任・兼任の教授・助教授の専門も、循環器・消化器・腎臓呼吸器等の内科、精神科から、心理学・体育学など各分野に広がり、思春期・青少年の性行動の現状にどの程度関心を持ち対応しているのか気になる問題である。

1993年全国大学保健管理研究集会の報告によると性体験率は、男子79%、女子65%を占め、初体験の大きなピークは大学1年に見られる。相手は男女とも同級生が60~70%を占め、先輩・後輩を合わせると96%以上も占めているという。

実際にコンドームを使用している率は男子84%、女子64%、そのうち常に使用しているのは89%男子女子77%である。これは、「大学生のHIV感染に対する意識」に対する調査であるが、大学生の性に関し、より広く理解していくことが必要だと述べられている。エイズ予防が目的では、性教育の本質から離れるが、きっかけではあっても、大学における性の問題が重視されるのは望ましい方向と思う。(IV-1)

調査内容

- ① 担当者の性行動に対する関心と認識度
- ② 学校全体の青少年の性行動に対する取組の現状(性に関する講座の有無・開設見込)
- ③ 担当者の青少年の性行動に対する取組の現状(性に関する講座への参加)
- ④ エイズを含めカウンセリングの重要性に対する認識度

調査範囲

国立大学、88校

公立・私立・短大300校から層別抽出・分析

調査結果

(IV-2)

感想

大学に性教育は必要か?大いに44.4%、まあ34%、計78.4%。

保健管理センターが性教育に関わるべきか?積極的なのは国立よりも私立で、私立短大は中でも一番積極的である。

私立短大は女子が多く、すぐ社会に直行する年代、性の問題に直接関わる集団を抱えているのでセンターとしては当然かも知れない。また女性スタッフは、医師(多くは男性)よりも直接女子学生の行動の実態を把握出来る立場にあるだけに、積極的にならざるを得ないのだと思う。

卒業後性教育に関わる可能性のある者に性教育は必要か?91%が必要と答えたが、そのうち大いには68.6%、まあが22.5%というのは、本当は理解されていない印象を受ける。

幼児期からの性教育に、更に磨きをかける意味で、正に適切な時期。社会に出たら出来ないからやってほしい年代である。

大学生の性行動とHIV感染に対する意識

国立小児病院小児医療研究センター 稲垣 稔
慶應義塾大学文学部 樽井 正義

わが国におけるHIV感染の流行の将来を決めるのは、感染経路で言えば異性間性的接触であり、世代で言えば大学生を含む若壮年層である。適正な知識と行動によって予防し得るHIV感染に対して、大学生が如何なる知識と意識を有し、また如何なる性行動をとっているかを調査してきたので報告したい。

90年以降広島大学教育学部、慶應義塾大学文学部の学生を主な対象として、HIV/AIDSに関する知識・意識調査を実施してきた。その成績から90年と93年とでは、知識の向上が認められた。特に感染経路、たとえば食器や蚊などから感染するといった誤りが、それぞれ37%、31%あったものが、4%、21%へと低下しており、感染経路や予防に関する知識の普及が進んだことが観察された。また、HIV/AIDSに対する関心度は年々高くなり、93年では、将来自分が感染するかもしれないという不安を持っていると答えたのは、男子の43%、女子の62%と高値であった。さらに、自分自身の性、健康あるいは差別や偏見にどう対応し

ていくかという点についても、年々現実的に自己の問題としてとらえられていることが観察された。また、これらの対応に関し、男女差が現れてきたのが最近の特徴的变化であった。一方、性行動に関する調査からは、性体験率は男子79%、女子65%であり、初体験の時期は大学1年時に大きなピークが認められた。その相手は男女ともに同級生が6~7割を占め、先輩、後輩を含めると、ともに96%以上を占めていた。コンドームによってHIV感染が防げることを知っていたのは、男子の97%、女子の98%と高かった。実際にコンドームを使用している率は、男子84%、女子63%であり、そのうち常に使用しているものは、男子89%、女子77%であった。

これらの調査成績をみると、ここ数年のHIV/AIDSに関する啓発、教育活動の成果を評価する点多々あるが、まだ十分とは言えず、今後も不断に活動を継続していく必要がある。また、大学生の性に関しては、より広く理解していくことが必要であると思われる。

(資料IV-2)

大学保健管理施設における大学生の Reproductive Healthへの関心と活動状況

国立公衆衛生院 保健統計人口学部 林 謙治、佐藤 龍三郎、畑 栄一

1. 調査の目的、背景

リプロダクティブヘルス「思春期の性行動」研究班では、これまで小・中・高教師、生徒、地域住民等を対象に調査あるいは活動を行ってきた。しかし大学生をも対象に加えることが重要と思われる。その理由は特に、①わが国において青少年期のうち大学生はもっとも性行動の活発な時期にあたる(多くの者にとって性行動開始年齢にあたる点、性的パートナーがまだ安定していない点で

も重要)、②大学生は将来大学で身につけた知識をもとに、リプロダクティブヘルスに関して一般国民に対して指導的立場にあたる(ことに教職や医療職に就く者はなおのこと)、などの点にあるといえよう。

大学における保健管理は終戦直後は結核対策などが主であったが、やがて完備した保健管理施設の設置が要望されるようになり、1966年に東京大学など4国立大学にはじめて保健管理センターが

設置された。保健管理センターの業務は、次の7点とされた。①学生の定期及び臨時の健康診断を行うこと。②学生のため随時、健康相談に応じること。③学生に対し個別的及び一般的に健康診断等の事後措置等健康の保持増進について必要な指導を行うこと。④学内の環境衛生及び伝染病の予防について指導援助すること。⑤学内保健計画の立案について指導援助すること。⑥保健管理の充実向上のための調査研究を行うこと。⑦その他学生の健康保持増進について必要な専門的業務を行うこと。

またこれと前後するが、1963年より全国大学保健管理研究集会が毎年開催されるようになり、全国大学の保健管理関係者の協会の結成が立案され、1964年社団法人「全国大学保健管理協会」の設立が文部大臣より許可された。(学校保健会、1973)最近7回の全国大学保健管理研究集会の報告書(抄録集)には、大学生の reproduction health に関する研究事例が散見される。(資料1、参照)1992年10月には国立大学保健管理施設協議会エイズ特別委員会設置され、パンフレットを作成し全国の国立大学に頒布した。(資料2、参照)

2. 調査方法

東京近辺の3大学の大学保健管理施設(保健管理センター)への訪問・聞き取り調査を行った後、調査票を作成した。調査対象は、直近の全国大学保健管理研究集会(第31回大会、1993年10月)参加校とした。(下記の通り)

国立大学	94校(大学院大学3校を除くと91校)
公立大学	17校
私立大学	163校
国立短大	2校
公立短大	7校
私立短大	52校

計 335校(大学院大学3校を除くと332校)

上記の第31回全国大学保健管理研究集会参加335校のうち、大学院大学3校を除く332校を調査対象とし、調査票を送付した。調査票の発送は1994年3月中旬に行われ、4月中に回収された。

調査内容は、センター(施設)の概要、個別相談における性の問題、予防的保健管理および調査

票(資料3)を参照されたい。

3. 調査結果

調査票は212校から返送された(回収率63.9%)。ただしうち3校は「該当なし」(保健管理施設存在せず)との回答であり、有効な回答が得られたのはこれを除く209校であった(有効回収率63.0%)。なお以下の記述では設問ごとの有効回答数に対する%を用いる。

施設(大学)名の記入は任意としたが、施設(大学)名は96%記入されていた。記入(回答)者の職種は、保健婦・助産婦・看護婦(51%)が最も多く、医師(35%)がこれに次いだ。少数だが、事務職(6.8%)、カウンセラー(1.0%)による記入もあった。

単純集計結果(記述式自由回答を除く)は資料4に、主なクロス集計結果は資料5に、記述式自由回答は資料6にそれぞれ別掲した。

A. センターの概要

大学の種別は、私立大学(53.6%)が半数以上占め、国立大学(28.2%)、私立短大(11.0%)がこれに次いだ。公立大学(5.3%)と公立短大(1.9%)は少数であった。大学の学生総数(施設の対象学生数)は300から4万6600までまちまちであった(平均5361人)。また大部分(78.5%)が男女共学であったが、女子のみの大学(短大)も2割を占めた。

(施設)センターの職種別人数をみると、常勤職員の施設あたりの平均人数は総数8.7人で、医師1.0人、保健婦・助産婦・看護婦1.7人、カウンセラー0.4人、教育職2.9人、栄養士0.1人、事務職2.5人であった。ただし大学の職員で保健管理施設(センター)の職員を兼任している場合も常勤職員に含めてあるので、そのすべてが専任というわけではない。非常勤職員(臨時、パート、嘱託等)の施設あたりの平均人数は総数7.6人で、医師2.7人、保健婦・助産婦・看護婦0.8人、カウンセラー0.4人、教育職2.7人、栄養士0.0人、事務職0.7人であった。

B. 個別相談における性の問題

過去1年間の施設(センター)当りの学生の個別健康相談の総件数は、平均して530件であり、そのうち性の問題に関連した個別相談件数は平均18.5件であった。大学で健康管理施設(センター)以外に学生の性の問題に関する個別相談の受け皿と

なるところがあるかとたずねたところ、学生相談室（センター）は45.0%の大学にあり、カウンセリング室（センター）は12.9%にあった。

C. 予防的保健管理および調査研究

保健管理施設（センター）で、学生の性の問題を予防的保健管理の問題のテーマの一つとして扱っていると答えた施設は12.2%にとどまった。大学の種別にみると、予防的保健管理の問題のテーマの一つとして扱っていると答えたのは国立大学では31%、私立大学では21%であった。

また（回答者の個人的考えとして今後、大学生の妊娠は増加すると思うものは30.2%で、思わない（11.7%）より多かったが、いずれともいえないものが半数近くを占めた。大学の種別にみると、大学生の妊娠が増加すると思うものは国立大学では25%、私立大学では30%であった。また回答者の職種別にみると、大学生の妊娠が増加すると思うものは医師（26%）より、保健婦・助産婦・看護婦（33%）の方がやや多かった。

D. 性教育（エイズ教育を除く）

施設（センター）のスタッフが、大学内で性に関する講義（含む：男性学、女性学）をもっている大学は、正規の講義の中で（18.8%）、入学時オリエンテーションなどで（2.5%）を合わせても21.3%にとどまり、もっていない大学が大部分（73.8%）を占めた。また施設（センター）が大学内で、性教育に関して実施したこととしては、パンフレット作成・配付（26.3%）、講演会（10.5%）、ポスター作成・掲示（9.6%）、ビデオ・映画上映（9.1%）などが挙げられた。すなわちパンフレット作成・配布（26.3%）が最も多かったが、大学の種別にみると国立大学では24%、私立大学では23%、私立短大では52%がパンフレット作成・配布を実施していた。

他方、施設（センター）の主催ではないが、大学内で性教育に関して実施されたこと（同施設で把握されている限り）としては、パンフレット作成・配布（9.6%）、ビデオ・映画上映（7.7%）、講演会（6.7%）、ポスター作成・掲示（5.7%）などが挙げられた。

大学生に対して一般に性教育は必要か（回答者の個人的考えとして）の問にたいしては、大いに必要（44.4%）、まあ必要（34.1%）を合わせると78.5%が必要と思っており、あまり必要ではない（10.2%）、不要（2.4%）と思うのは少数にすぎな

かった。これを大学の種別にみると、大いに必要、まあ必要を合わせた割合は、国立大学では77%、私立大学では78%、私立短大では86%であった。回答者の職種別にみると、大いに必要、まあ必要を合わせた割合は、医師では71%、保健婦・助産婦・看護婦では81%であった。

また、卒業後教師になる学生または性教育をする立場になる人々に対して性教育は必要か（回答者の個人的考えとして）の問に対しては、大いに必要（68.6%）、まあ必要（22.5%）を合わせると91.2%に達し、前問よりもさらに必要と思うものが多いことを示している。そこで、大いに必要と思うものは、国立大学では64%、私立大学では69%を占めていた。回答者の職種別にみると、大いに必要と思うものは医師（57%）より保健婦・助産婦・看護婦（81%）に高い割合でみられた。

大学保健管理施設（センター）は大学生に対する性教育に関わるべきか（回答者の個人的考えとして）の問に対しては、大に関わるべき（33.3%）、まあ関わってよい（43.3%）を合わせた「積極派」が76.6%にのぼるが、あまり関わらなくてもよい（9.5%）、関わるべきではない（1.5%）を合わせた「消極派」も1割を越えた。大学の種別にみると国立大学では「積極派」70%対「消極派」19%であるのに、私立大学では「積極派」77%対「消極派」7%、私立短大では「積極派」91%対「消極派」5%であった。回答者の職種別にみると、医師では「積極派」65%対「消極派」25%であるのに対し、保健婦・助産婦・看護婦では「積極派」79%対「消極派」3%であった。

E. エイズ教育センター

施設（センター）のスタッフが、大学内でエイズ教育に関する講義をもっている大学は、正規の講義の中で（20.6%）、公開講座の中で（4.9%）、入学時オリエンテーションなどで（8.8%）を合わせると34.3%あり、センターとして一般の性教育の講義をもっている大学の割合を上回った。しかしもっていない大学が6割近くを占めた。また施設（センター）が大学内で、エイズ教育に関して実施したこととしては、パンフレット作成・配布（71.3%）、ポスター・掲示（47.4%）、講演会（44.0%）、ビデオ・映画上映（33.0%）などが挙げられた。他方、保健管理施設（センター）の主催ではないが、大学内でエイズ教育に関して実施されたこと（同施設で把握されている限り）としては、

パンフレット作成・配布 (33.0%), 講演会 (25.8%), ポスター作成・掲示 (23.9%), ビデオ・映画上映 (14.4%) などが挙げられた。いずれも一般の性教育に関してよりもはるかに高い割合である。

大学生に対してエイズ教育は必要か (回答者の個人的考えとして) の問に対しては、大いに必要 (74.4%)、まあ必要 (21.3%) を合わせると 95.7% に達し、あまり必要ではない (0.5%) はほぼ皆無、不要と答えたものは皆無だった。

F. その他

その他、保健管理施設 (センター) のスタッフの目から見た大学生の性の問題 (リプロダクティブ・ヘルス) の現状の問題点、あるいは、大学生の性の問題 (リプロダクティブ・ヘルス) への取り組みに関連して、自由意見 (回答者の個人的考え) を求めたところ、27.8% の回答者が意見を記載した。

4. おわりに

本調査に対して 63.9% という高い回収率が得られたのは、このテーマに対する関心の高さの反映

と思われる。現在のところまだ分析の途中であり概観したに過ぎない。今後この貴重な調査データの分析を進め、大学生のリプロダクティブ・ヘルスという重要なテーマへの取り組みを続け、研究を深めていきたい。

お忙しい折、本調査にご協力いただいた全国の大学保健管理施設 (センター) の皆様に厚くお礼申し上げます。

[文 献]

相場恵美子ら (1991) : 4年制大学生の「結婚、母性、仕事」に関する意識調査、母性衛生、32 (1) ; 90 - 93.

学校保健会 (1973) : 学校保健百年史、第一法規出版 (東京)。

日本女子大学保健管理センター (1993) : 日本女子大学保健管理センター報告、第 12 号

田中たえ子ら (1989) : 4年制女子大学における在学中の婦人科学的保健指導と予後調査について (第 2 報)、思春期学、7 (4) ; 348 - 352.

田中たえ子ら (1991) : 4年制大学生の「仕事、結婚、母性」に関する意識調査 (第 2 報)、33 (1) ; 98 - 103.

B 4. 保健管理施設（センター）で処置できない場合（学生の妊娠など）の対応はどうされていますか。
[]

C. 予防的保健管理および調査研究

C 1. 貴施設（センター）では、学生の性の問題を予防的保健管理の問題のテーマの一つとして扱っていらっしゃいますか？

1. 扱っている 2. 扱っていない 3. いずれともいえない

C 2. 貴施設（センター）で、学生を対象に、学生の性の問題に関する調査研究を実施されたことがありますか？

1. ある 2. ない 3. わからない

具体的内容 []

* 調査研究結果を公表された場合、文献名を教えてください。

文献名 []

C 3. 今後、大学生の妊娠は増加すると思われますか？（ご回答者の個人的お考えをお書きください）

1. 思う 2. 思わない 3. いずれともいえない 4. わからない

* 大学生の妊娠にどう対応していったらよいと思われますか。ご意見をおきかせください。
（ご回答者の個人的お考えをお書きください）

[]

D. 性教育

（エイズ教育については次の項目でおたずねいたしますので、この項目ではエイズ教育を除く一般の性教育についてお答えください）

貴施設（センター）では、学生に対する性教育にどう関わっていらっしゃいますか？ なおここでいう「性教育」は、性に関する科学的知識（性科学, sexology）の提供を含む幅広い概念とお考えください。

D 1. 貴施設（センター）のスタッフが、貴大学内で性に関する講義（含む：男性学、女性学）をもつておられますか

1. もっている（正規の講義の中で） 2. もっている（公開講座の中で）
3. もっている（入学時オリエンテーションなどで） 4. もっていない
5. わからない

D 2. 貴施設（センター）が貴大学内で、性教育に関して以下のことを実施されたでしょうか？
いくつでも○をつけてください。

- 1.パンフレット作成・配布 2.ポスター作成・掲示 3.講演会 4.ビデオ・映画上映
5.その他 []

D 3. 貴施設（センター）の主催ではないが、貴大学内で、性教育に関して以下のことが実施されたでしょうか？ 貴施設（センター）で把握されている限りいくつでも○をつけてください。

- 1.パンフレット作成・配布 2.ポスター作成・掲示 3.講演会 4.ビデオ・映画上映
5.その他 []

D 4. 大学生に対して一般に性教育は必要と思われますか？（ご回答者の個人的お考えをお書きください）

1. 大いに必要 2. まあ必要 3. あまり必要でない 4. 不要 5. いずれともいえない

理由 [

D 5. 卒業後、教師になる学生または性教育をする立場になる人々に対して、性教育は必要と思われますか？（ご回答者の個人的お考えをお書きください）

1. 大いに必要 2. まあ必要 3. あまり必要でない 4. 不要 5. いずれともいえない

D 6. 大学保健管理施設（センター）は大学生に対する性教育に関わるべきと思われますか？（ご回答者の個人的お考えをお書きください）

1. 大に関わるべき 2. まあ関わってよい 3. あまり関わらなくてよい
4. 関わるべきでない 5. いずれともいえない

理由 [

E. エイズ教育

E 1. 貴施設（センター）のスタッフが、貴大学内でエイズ教育に関する講義をもっておられますか。

1. もっている（正規の講義の中で） 2. もっている（公開講座の中で）
3. もっている（入学時オリエンテーションなどで） 4. もっていない
5. わからない

E 2. 貴施設（センター）が貴大学内で、エイズ教育に関して以下のことを実施されたでしょうか？
いくつでも○をつけてください。

1. バンフレット作成・配布 2. ポスター作成・掲示 3. 講演会 4. ビデオ・映画上映
5. その他 [

E 3. 貴施設（センター）の主催ではないが、貴大学内で、エイズ教育に関して以下のことが実施されたでしょうか？ 貴施設（センター）で把握されている限りいくつでも○をつけてください。

1. バンフレット作成・配布 2. ポスター作成・掲示 3. 講演会 4. ビデオ・映画上映
5. その他 [

E 4. 大学生に対してエイズ教育は必要と思われますか？（ご回答者の個人的お考えをお書きください）

1. 大いに必要 2. まあ必要 3. あまり必要でない 4. 不要 5. いずれともいえない

F. その他

その他、センターのスタッフの目から見た大学生の性の問題（リプロダクティブ・ヘルス）の現状の問題点、あるいは、大学生の性の問題（リプロダクティブ・ヘルス）への取り組みに関連して、ご意見がございましたら、ご自由にお書き下さい。（ご回答者の個人的お考えをお書きください）

ご協力ありがとうございました。

全国大学保健管理研究集会の報告書にみる大学生の
リプロダクティブヘルスの研究例

- 第25回大会 1987年10.21-22 長崎市(当番大学:長崎大学)
[文献]第25回全国大学保健管理研究集会運営委員会(編):第25回全国大学保健管理協会(発行),1988年3月.

- 第26回大会 1988年10.25-26 京都市(当番大学:京都大学)
[文献]第26回全国大学保健管理研究集会運営委員会(編):第26回全国大学保健管理研究集会報告書(Ⅱ),(社)全国大学保健管理協会(発行),1989年8月.

- 第27回大会 1989年11.11-12 札幌市(当番大学:北海道大学)
○上林貞子:大学における女子学生の保健指導:特に母性意識の確立について,
[報告書],p.44-47
[文献]第27回全国大学保健管理研究集会運営委員会(編):第27回全国大学保健管理研究集会報告書(Ⅱ),(社)全国大学保健管理協会(発行),1990年3月.

- 第28回大会 1990年10.2-3 東京:国立教育会館(当番大学:東海大学)
[文献]第28回全国大学保健管理研究集会運営委員会(編):第28回全国大学保健管理研究集会報告書,(社)全国大学保健管理協会(発行),1991年5月.

- 第29回大会 1991年9.25-26 広島(当番大学:広島大学)
○谷川原絢子ら:女子大学におけるHBVスクリーニング検査について,
[報告書,ワークショップ],p.62-68
○堀口雅子:女子大学生にみられる月経異常とその管理;特に体重減少性無月経について,[報告書,ワークショップ],p.86-90
○和田佳子ら:健康管理センターについての意識調査(第2報),[一般研究発表]P.283-285
[文献]第29回全国大学保健管理研究集会運営委員会(編):第29回全国大学保健管理研究集会報告書,(社)全国大学保健管理協会(発行)
(発行年月日記入なし?多分1992.).

- 第30回大会 1992年9.30-10.1 大阪(当番大学:大阪大学)
[文献]第30回全国大学保健管理研究集会運営委員会(編):第30回全国大学保健管理研究集会報告書,(発行書、発行年月日記入なし、多分1993).

- 第31回大会 1993年10.6-7 名古屋:(当番大学:名古屋大学)
○ワークショップ:大学生に対するHIV感染予防教育の推進(4題),
[プログラム・抄録集]p.49-54

- 前田芳夫ら：大学新生へのエイズへの意識調査, [一般研究発表] p. 121
- 甲斐道子ら：大学生のAIDSに関する意識調査成績, [一般研究発表] p. 122
- 高安ツギ子ら：大学生とエイズ～アンケート調査の結果より, [一般研究発表] p.123
- 弓削幸子ら：医学生のAIDS意識,[一般研究発表] p.124
- 前田芳夫ら：エイズに関する認識度と教育効果に関する検討,[一般研究発表] p.125
- 前田真也ら：大学生のHIV感染への認識と対応上の諸問題,[一般研究発表] P.126
- 一円禎紀ら：大学職員に対するエイズについての知識・認識調査 [一般研究発表] p.127
- 山森昭子ら：保健所と連携した健康教育：性、エイズ教育の取り組みについて,[一般研究] P. 149
- 有森茂ら：HIV抗体陽性血友病2症例の経過に関する研究,[一般研究発表] p.151

[文献] 第13回全国大学保健管理研究集会運営委員会(編)：第31回全国大学保健管理研究集会プログラム・抄録集,(発行者、発行年月日記入なし?多分1993).

- 第32回大会 1994年(予定)(当番大学：信州大学)

資料2

国立大学保健管理施設協議会エイズ特別委員会の活動

1992年10月設置。委員長：戸部和夫教授(岡山大学保健管理センター)。以下のパンフレットを出版し、全国の国立大学に頒布：

- (1)『エイズ：教職員のためのガイドブック』A5版,160頁(教職員用) 1993年3月
- (2)『学生の必修講座：エイズ・ハンドブック：エイズ時代の生きかた探し』A4版,18頁(学生用)

資料5

主なクロス集計結果

カイ2乗値 (自由度) 9.06920 (4) 有意確率 0.059393

クラメールの関連係数 0.208311

[クロス集計表]

項目名: (縦-横) X3 - X46

無効標本数 8

X3 = A1.

X46 = D4. 大学生に対して一般に性教育は

	1. (%)	2. (%)	3. (%)	4. (%)	3. (%)	合計 (%)
1.	23 (11.2)	21 (10.2)	5 (2.4)	3 (1.5)	5 (2.4)	57 (27.8)
2.	4 (2.0)	3 (1.5)	3 (1.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	11 (5.4)
3.	48 (23.4)	39 (19.0)	11 (5.4)	1 (0.5)	12 (5.9)	111 (54.1)
5.	2 (1.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.0)
6.	14 (6.8)	5 (2.4)	2 (1.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	22 (10.7)
合計	91 (44.4)	70 (34.1)	21 (10.2)	5 (2.4)	18 (8.8)	205 (100.0)

- (1. 大いに必要 2. まあ必要
3. あまり必要ではない 4. 不要
5. いずれともいえない)

カイ2乗値 (自由度) 15.24874 (16) 有意確率 0.506501

クラメールの関連係数 0.136367

[クロス集計表]

項目名: (縦-横) X3 - X48

無効標本数 5

X3 = A1.

X48 = D5. 教師になる学生または性教育をする立場になる人々に対して、性教育は

	1. (%)	2. (%)	3. (%)	4. (%)	5. (%)	合計 (%)
1.	37 (18.1)	14 (6.9)	1 (0.5)	2 (1.0)	4 (2.0)	58 (28.4)
2.	7 (3.4)	2 (1.0)	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	11 (5.4)
3.	74 (36.3)	25 (12.3)	5 (2.5)	0 (0.0)	4 (2.0)	108 (52.9)
5.	3 (1.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.0)
6.	19 (9.3)	4 (2.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	23 (11.3)
合計	140 (68.6)	46 (22.5)	7 (3.4)	3 (1.5)	8 (3.9)	204 (100.0)

- (1. 大いに必要 2. まあ必要
3. あまり必要ではない 4. 不要
5. いずれともいえない)

カイ2乗値 (自由度) 14.95517 (16) 有意確率 0.527924

クラメールの関連係数 0.135379

[クロス集計表]

項目名: (縦-横) X3 - X49

無効標本数 8

X3 = A1.

X49 = D6. 大学保健管理施設(センター)は大学生に対する性教育に

	1. (%)	2. (%)	3. (%)	4. (%)	5. (%)	合計 (%)
1.	15 (7.5)	25 (12.4)	9 (4.5)	2 (1.0)	6 (3.0)	57 (28.4)
2.	3 (1.5)	5 (2.5)	1 (0.5)	1 (0.5)	1 (0.5)	11 (5.5)
3.	36 (17.9)	46 (22.9)	8 (4.0)	0 (0.0)	17 (8.5)	107 (53.2)
5.	2 (1.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.0)
6.	11 (5.5)	9 (4.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.5)	22 (10.9)
合計	67 (33.3)	87 (43.3)	19 (9.5)	3 (1.5)	25 (12.4)	201 (100.0)

- (1. 大いに関わるべき 2. まあ関わってもよい
3. あまり関わらなくてよい 4. 関わるべきではない
5. いずれともいえない)

カイ2乗値 (自由度) 17.70777 (16) 有意確率0.341285
 クラメールの関連係数 0.148407

[クロス集計表]

項目名: (縦-横) X2 - X33		無効標本数 6			
	1. (%)	2. (%)	3. (%)	4. (%)	合計. (%)
1.	15 (7.4)	11 (5.4)	26 (12.8)	5 (2.5)	57 (28.1)
2.	32 (15.8)	8 (3.9)	45 (22.2)	12 (5.9)	97 (47.8)
3.	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	2 (1.0)
4.	2 (1.0)	0 (0.0)	3 (1.5)	4 (2.0)	9 (4.4)
6.	2 (1.0)	3 (1.5)	6 (3.0)	3 (1.5)	14 (6.9)
7.	2 (1.0)	1 (0.5)	1 (0.5)	1 (0.5)	5 (2.5)
8.	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)	1 (0.5)	3 (1.5)
9.	4 (2.0)	1 (0.5)	3 (1.5)	0 (0.0)	9 (4.4)
10.	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	2 (1.0)
11.	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
12.	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	2 (1.0)
13.	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
14.	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	1 (0.5)
合計	61 (30.0)	24 (11.8)	91 (44.8)	27 (13.3)	203 (100.0)

X2 = 職種

- | | |
|-----------|----------------|
| 1. 医師 | 2. 保健婦、助産婦、看護婦 |
| 3. カウンセラー | 4. 教育職 |
| 5. 栄養士 | 6. 事務職 |
| 7. その他 | |
| 8. 1と2 | 9. 1と4 |
| 10. 1と3 | |
| 11. 2と3と4 | 12. 3と4 |
| 13. 2と4 | 14. 2と3 |

X33 = C3 今後、大学生の妊娠は増加すると

- | | | |
|----------|---------|--------------|
| 1. 思う | 2. 思わない | 3. いずれともいえない |
| 4. わからない | | |

カイ2乗値 (自由度) 30.93645 (36) 有意確率0.708031
 クラメールの関連係数 0.225386

[クロス集計表]

項目名: (縦-横) X2 - X33		無効標本数 6				
	1. (%)	2. (%)	3. (%)	4. (%)	5. (%)	合計. (%)
1.	20 (9.9)	21 (10.3)	8 (3.9)	4 (2.0)	5 (2.5)	58 (28.6)
2.	51 (25.1)	27 (13.3)	8 (3.9)	0 (0.0)	10 (4.9)	96 (47.3)
3.	0 (0.0)	1 (0.5)	3 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	2 (1.0)
4.	4 (2.0)	6 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (4.9)
6.	3 (1.5)	4 (2.0)	5 (2.5)	1 (0.5)	1 (0.5)	14 (6.9)
7.	2 (1.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.0)
8.	3 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.5)
9.	3 (1.5)	6 (3.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (4.4)
10.	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)
11.	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
12.	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	2 (1.0)
13.	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
14.	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
合計	90 (44.3)	69 (34.0)	21 (10.3)	5 (2.5)	18 (8.9)	203 (100.0)

X2 = 職種

X46 = D4. 大学生に対して一般に性教育は

- | | |
|--------------|---------|
| 1. 大いに必要 | 2. まあ必要 |
| 3. あまり必要ではない | 4. 不要 |
| 5. いずれともいえない | |

カイ2乗値 (自由度) 52.85068 (48) 有意確率 0.292235

クラメールの関連係数 0.255122

[クロス集計表]

項目名: (縦-横) X2 - X48

無効標本数 7

X2 = 職種

X46 = D5. 教師になる学生または性教育をする立場になる人々に対して、性教育は

- (1. 大いに必要 2. まあ必要
3. あまり必要ではない 4. 不要
5. いずれともいえない)

	1. (%)	2. (%)	3. (%)	4. (%)	5. (%)	合計. (%)
1.	33 (16.3)	15 (7.4)	4 (2.0)	2 (1.0)	4 (2.0)	58 (28.7)
2.	79 (39.1)	14 (6.9)	1 (0.5)	0 (0.0)	3 (1.5)	97 (48.0)
3.	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)	2 (1.0)
4.	5 (2.5)	3 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (4.0)
6.	6 (3.0)	5 (2.5)	2 (1.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	14 (6.9)
7.	3 (1.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.0)
8.	3 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.5)
9.	5 (2.5)	4 (2.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (4.5)
10.	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)
11.	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
12.	1 (0.5)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)
13.	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
14.	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
合計	139 (68.8)	45 (22.3)	7 (3.5)	3 (1.5)	8 (4.0)	202 (100.0)

カイ2乗値 (自由度) 47.82015 (48) 有意確率 0.480161

クラメールの関連係数 0.243276

[クロス集計表]

項目名: (縦-横) X2 - X49

無効標本数 10

X2 = 職種

X46 = D8. 大学保健管理施設 (センター) は大学生に対する性教育に

- [1. 大に関わるべき
2. まあ関わってよい
3. あまり関わらなくてよい
4. 関わるべきでない
5. いずれともいえない]

	1. (%)	2. (%)	3. (%)	4. (%)	5. (%)	合計. (%)
1.	13 (6.5)	24 (12.1)	12 (6.0)	2 (1.0)	6 (3.0)	57 (28.6)
2.	39 (19.6)	36 (18.1)	3 (1.5)	0 (0.0)	17 (8.5)	95 (47.7)
3.	0 (0.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)
4.	5 (2.5)	4 (2.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (4.5)
6.	2 (1.0)	5 (2.5)	4 (2.0)	1 (0.5)	2 (1.0)	14 (7.0)
7.	1 (0.5)	3 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.0)
8.	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)
9.	1 (0.5)	8 (4.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (4.5)
10.	0 (0.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)
11.	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
12.	0 (0.0)	2 (1.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.0)
13.	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
14.	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
合計	66 (33.2)	86 (43.2)	19 (9.5)	3 (1.5)	25 (12.6)	199 (100.0)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



小学・中学・高校の性教育が重要視されているが大学における性教育の必要性はどのように受け止められているのであろうか。

生物学的に成熟した年代の男女の学ぶ大学において、より身近な問題として受け止めることのできる年代に、正しい性の認識のないまま放置されて良いのであろうか。まして、これから青少年の指導に関係する教職を選ぶ者、医療に従事する者は。

お茶の水女子大・東京女子大・共立女子大・日本女子大・津田塾・一ツ橋大学・広島大学・岐阜大学教育学部・その他の大学で、最近、男性学・女性学・性と生などをテーマとし集中講義・公開講座が開かれているが、まだまだ、ごく一部に過ぎない。

更に大きな問題は、大学の性教育をHIV感染予防という面からしか考えない当事者のいる可能性のあることである。性教育は性器教育でも、HIV感染予防のためでもなく、性を持った生物としての当然の姿を正しく認識することを教えるのではないだろうか。下半身を切り取った性抜きの人間などありえない。人間と人間の心とからだの問題として捕らえなければ、次の世代にも、自分たちの老後の生き方にも、影響は大きい。